

京都

うろつきまわりめぐ

勸修寺

妖樹特集

山科にある勸修寺。ここには何百年も生き続けている奇妙な木が2本あります。今回はそれらの妖樹をご紹介します。

臥竜の老梅

この木は一見何の変哲もない木ですが、根元を見ると複数の幹が絡み合っているのがわかります。これは親子3代の梅が1つになっている珍しい木です。全体を取り囲んでいる根付近が樹齢300年の『親の木』。もっとも太く、とぐろを巻く蛇のように見える横様になっている木が『子の木』。そして、それらに囲まれた細身の若木が『孫の木』です。『子の木』の様子が地に伏す竜のように見えるのでこの梅の名前が付けました。

色鮮やかでも大きくもない梅の木は、決して華々しい観光の見所とは言えません。しかし、石のように苔むした『子の木』の幹や、かって花を咲かせたであろう『親の木』から往時の姿を想像する楽しみは、ただ綺麗なものだけの花からは味わえないものです。

この梅の木が開花するのは2月中旬と言われています。もしも山科を訪れることがあれば、この樹を覗くために勸修寺に立ち寄ってはいかがでしょうか。



「親の木」は根元だけになっている。

ハイビヤクシン

この木も何の変哲もない、せいぜい高さ1~2mの、まわりに繁茂するほかの庭木に埋没してしまいそうな小木です。しかし、よくよく眺めればそれは誤りだとわかります。この周辺の庭木は、なんとすべて同じ1つの木・ハイビヤクシンなのです。

この木は一風変わった形をしています。枝葉が上に伸びず、杉のような針葉を芝のように水平に伸ばしているのです。あちこちに横走りして、どこまでが1本の木かわからない。まるで緑の絨毯のようです。750年の間枯れることなく、常緑の葉をつけて生き続けています。

木の中で埋もれて建っている勸修寺型灯籠は、水戸黄門こと徳川光圀公がこのお寺に寄贈したものです。この灯籠がこの木の750年の史を感じさせる心憎いアクセントになっています。



画面下はすべて同じ木



勸修寺
京都市山科区勸修寺仁王堂町27-6
地下鉄東西線小野駅下車徒歩5~6分
拝観料：400円
拝観時間：9時~16時

かんたん Cooking

レンジ de かんたん ゆで卵

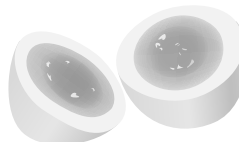
電子レンジで卵を直接加熱すると爆発するのは周知の事実。しかし、ちょっとした工夫で電子レンジでもゆで卵が作れます。固さの調整もしやすいこの方法、ぜひお試しあれ。(ぶっち)



①卵をアルミホイルで包みマグカップに入れて、卵が浸かるくらいまで水を注ぐ。



②電子レンジを使って500Wで4分、200Wで6分加熱する。



③レンジから取り出せば完成(すぐに水で冷やすと剥きやすくなります)。

準備するもの

- ・卵
- ・マグカップ
- ・水
- ・アルミホイル

～注意事項～

- ①アルミホイルで卵を完全に包んでください。卵が露出していると爆発する可能性があります。
- ②加熱中水がなくなるとアルミホイルから火花が散ります。
- ③レンジの出力により加熱時間は変わります。また、このレシピでは半熟を基準にしていますので、好みの固さになるように加熱する時間を調整してみてください。

はみだしすてーじ

あまった豆は全部食べます。落ちてる豆も食べます。⇒節約の鑑ですね。

(工・3 犬)
(おなかいたくなってももらないよ; 編)